

教育委員会だより

令和8年8月19日号 多治見市教育委員会 教育総務課

くめざす子ども像
お互いを尊重し、
主体的に学び、
挑戦する多治見の子

真夏の「アップデート」 ～各種講座・研修会～

子どもたちは夏休みを満喫していることでしょう。夏の課題を自分なりに創意工夫し、やりきる苦勞の体験を通して、子どもは一回り大きくなって学校に戻ってきます。教職員も、次のような学びを重ね、アップデートの夏となりました。

得意セミナー：児童生徒向け体験講座 全7講座88名の子どもたちが参加しました。「科学作品」「書道セミナー」「ポスターを描こう」「プログラミング講座」など市内の教職員が講師を務めました。受講後のアンケートでは、100%の児童生徒が肯定的な回答をしています。先生方の得意分野を活かし、子どもたちの貴重な体験が生み出されています。

教師塾セミナー：教員向け研修講座 全7講座129名の教職員が研修を受講しました。「運動遊び」「生成AI」など、夏休み明け、子どもたちのためにすぐに役立つような学びができました。先生方一人一人のスキルアップの結果、子どもたちの学びも充実します。得意セミナーを含め、講師の先生方に感謝です！

習慣向上講演会 「脳科学からみた読書の有効性」と題して、東京大学の酒井邦嘉教授に講演していただきました。デジタルと紙媒体のハイブリッドを進める本市としては、紙媒体の大切さを再認識する契機となりました。自分にとっての「大切な一冊」を常に傍らに置くことで、人生をより豊かにできること。子どもたちにも、そんな価値観を伝えていきたいと感じました。

子どもの権利セミナー こども家庭庁参与の辻由紀子さんに「子どもたちに届けたい！ 幸せな人生を歩むための生きる教育」と題して、多治見の暑さに負けないほどの、熱い思いを込めてご講演いただきました。自身の体験から語られる言葉は心に刺さりました。特に子どもの「本当の自立とは適切に人に助けと頼れること」という言葉に「ひとりだち」の本来の姿を見た気がします。社会と適切につながる精神的自立ができるよう、伴走型支援の重要性を感じました。

人権同和教育講演会 松村元樹さんの講演を聞きました。マジョリティに発生し得ない不公正がマイノリティに発生する社会構造の問題点を指摘され、人権教育の在り方について学ぶことができました。温かな心を涵養する教育はとても大切です。そんな経験があるから「相手の立場に立って」物事を考える力も

身に付いていきます。その上で、権利が侵害・制限されていることへの問題意識や自らがもつ無意識の思い込みに気づくことができる学びを、義務教育の段階で経験することの重要性を実感しました。

生徒主体の学校づくり ～連合生徒会交流会～

8月5日（水）に第40回連合生徒会交流会がバロー文化ホールで行われました。市内8中学校から51名の参加があり、南姫中学校の生徒が司会を務めました。午前中は多治見市中学校宣言を基に、それぞれの学校課題を解決する具体的な取組について交流しました。プレゼン



の中に動画を入れるなど、自校の特徴を主体的に話すリーダーたちの姿は頼もしく「よりよい学校を創造している」という自信にあふれていました。各校の取組を聞いた後は「自校に活かせることはないか」という視点で真剣な議論を展開。夏休み明けの彼らの活躍が楽しみです。40回を重ねた本会の歴史は、先輩から後輩へと「生徒主体の学校づくり」という点で、脈々と受け継がれています。

午後からは、文部科学省が実施している「アントレプレナーシップ推進大使派遣事業」を活用し、KUROFUNE株式会社の倉片稜さんの講演を聞きました。各校がバラバラになったグループ編成で数々のミッションに協働して向かっていく姿から、彼らが「ひとりだち」をする中で、それぞれの場所で大切な一人として活躍できる素質に満ちていることが伝わりました。未来が見通せない時代と言われる中、明るい光がさしたように思い、彼らへの期待は高まるばかりです。

夏休みだからこそその体験 ～夏休み親子食育講座～

食育推進課では、8月4日（火）に夏休み親子食育講座として「食育センター探検&省エネクッキング」を開催しました。食育センター探検では、夏休み特別企画として、普段は入ることができない調理場の中に入り、安全で安心なおいしい学校給食がどのような施設で作られているのか、その裏側を覗きました。東邦ガスネットワークの講師を招いた省エネクッキングでは、地球温暖化予防を意図した「二酸化炭素の排出量」の削減のための調理方法について考え、実際に調理実験をしました。本講座を通して、おいしい食事の源には「たくさんの食材の命」「生産者さんや調理員さん、お家の人の力」「地球の豊かなエネルギー」があることを伝えられたと思います。

